

# 学校設定科目「グローバル探究英語」の授業実践

平野校舎では、SGH及びWWL事業を通して「イノベティブなグローバル人材」を育成することを学校目標に掲げている。その実現のため、特に「課題解決力」「多文化理解力」「コミュニケーション力」「セルフマネジメント力」等の育成に重点を置いている。「グローバル探究英語」は上記の力を育成するため第2学年で実施する学校設定科目（1単位）である。＜アカデミックライティング＞＜プレゼンテーション＞＜即興型英語ディベート＞を外国人講師や外部講師と協働し実施している。授業の成果は、WWLで取り組む「課題研究」の英語での研究発表や論文作成、高校生国際会議での英語の議論に発展する。

## 【1】本年度より実施する学習指導要領との関連（学習指導要領解説より抜粋）

＜高等学校の授業の課題＞「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと、「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていないことといった課題がある。  
 ＜外国語科の目標＞「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」等。

## 【2】「グローバル探究英語」での授業実践

### 実践1 <アカデミックライティング>

モデルライティングを基に、topic sentence、supporting sentences、supporting details、concluding sentenceを学習。1つのパラグラフで説明する手法を学習後、「グラフの説明」「比較・対象」「問題と影響」「問題と原因」「問題と解決策」について、目的に合わせて4つのパラグラフ（introductory paragraph、body paragraph①、body paragraph②、concluding paragraph）で意見を述べるエッセイライティングを学習する（表1）。課題を課し、事前に提示したWriting Rubricに従い外国人講師が採点する。年間13回実施。

### 実践2 <プレゼンテーション>

割り当てられた国に関してPowerPointで5枚のスライドを作成。20秒で各スライドが自動的に切り替わる設定をし、合計100秒でプレゼンテーションを行う。Rubricに従って外国人講師が採点する（写真1）。

### 実践3 <即興型英語ディベート>

英語力に応じて各クラスの生徒を8名ずつ5グループ（高い順に花・雪・宙・月・星）に分け、同一グループ内で対戦する。毎授業初めに提示される論題について単語シート等を使って準備を行う。20分のディベートでは生徒及び指導者が「内容」と「表現」について評価する。最後に指導者が全体・個人に向けてフィードバックとベストディベーターを発表する（表2～4、写真2～5）。年間13回実施。

表1 パラグラフライティングの内容

回	内 容
1	パラグラフライティングの基本 「他の生徒がカンニングをしている時、生徒は先生に報告するべきか」
2	パラグラフライティング①（間違ったパラグラフを直す） 「全ての高校生は学校でスマートフォンの使用を許されるべきか」
3	パラグラフライティング②（supporting detailsとconcluding sentence） 「動物園は廃止されるべきか」
4	パラグラフライティング③（topic sentenceとsupporting sentences） 「遠隔勤務を選ぶ人の数は今後10年で増加するかどうか」
5	パラグラフライティング④（説得力のあるパラグラフ） 「高校生はボランティア活動を必須にするべきか」
6	パラグラフライティング・グラフの説明方法① 「結婚は時代遅れだと思うか」
7	パラグラフライティング・グラフの説明方法② 「平均寿命の伸びは問題より利益を生んでいると思うか」
8	エッセイライティング（原因を述べるエッセイ） 「日本のカジノ法案の賛成か反対か」
9	エッセイライティング（結果を述べる） 「消滅言語の原因と結果」
10	エッセイライティング（原因から解決策を述べる） 「少子高齢化社会の原因と結果」
11	エッセイライティング（比較・対象を説明する①） 「定年後に都会から田舎へ引越すのは有益だと思うか」
12	エッセイライティング（比較・対象を説明する②） 「海外旅行において個人旅行はバック旅行より良いか」
13	エッセイライティング（比較・対象を説明する③） 「動物実験は正当であると言えるか」



写真1  
プレゼンテーション

表2 授業（50分）の内容

時間	内 容
0-5分	論題発表、単語シート配布、単語練習
5-20分	実践準備
20-40分	ディベート実践
40-50分	講師からのフィードバック ○勝敗とその理由 ○全体コメント(論の流れの整理、全体へのアドバイス) ○個人コメント(一人一人に対するアドバイス) ○ベストディベーター発表

表3 年間13回の授業内容

回	日程	内 容
1	5/28	即興型英語ディベートの説明
2	6/3	ディベート実践① "Homework should be abolished."
3	6/17	ディベート実践② "All students should be required to join a school club."
4	7/15	ディベート実践③ "School uniforms should be abolished."
5	9/16	ディベート実践④ "We should implement the school-lunch program."
6	10/7	ディベート実践⑤ "Convenience stores should be closed late at night."
7	10/28	ディベート実践⑥ "Universities should be tuition-free."
8	11/11	ディベート実践⑦ "Zoos should be abolished."
9	11/18	ディベート実践⑧ "Companies should allow their employees to obtain a side job."
10	11/25	ディベート実践⑨ "Japan should abolish the death penalty."
11	12/13	予選① "We should promote the use of electronic textbooks at schools." "We should abolish exams at schools." "We should ban boys/girls only school."
12	12/14	予選② "We should charge for household trash." "Ambulance services should be charged." "Joining disaster volunteers should be mandatory."
13	1/13	決勝 "Homework should be abolished."

表4 評価基準

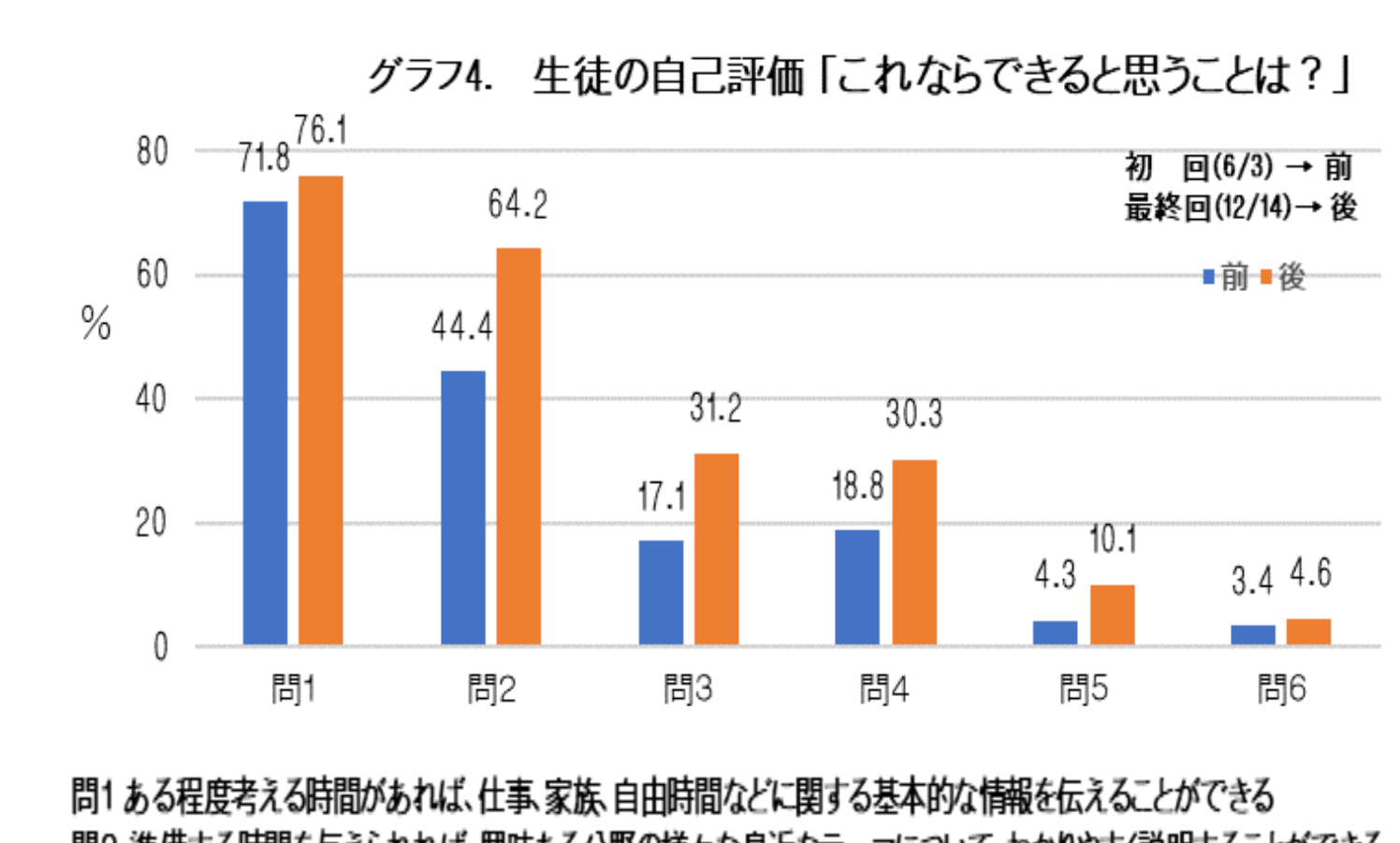
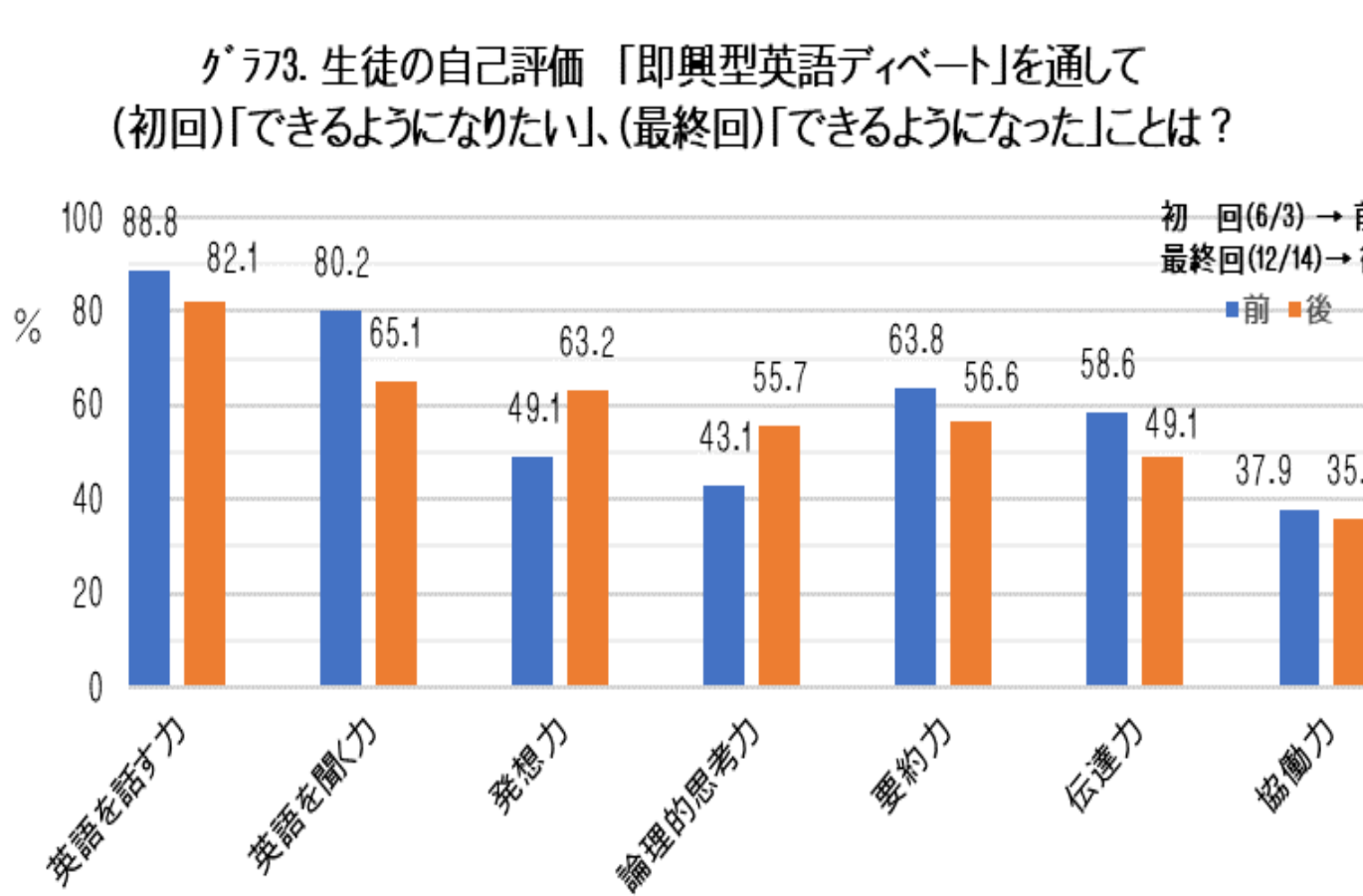
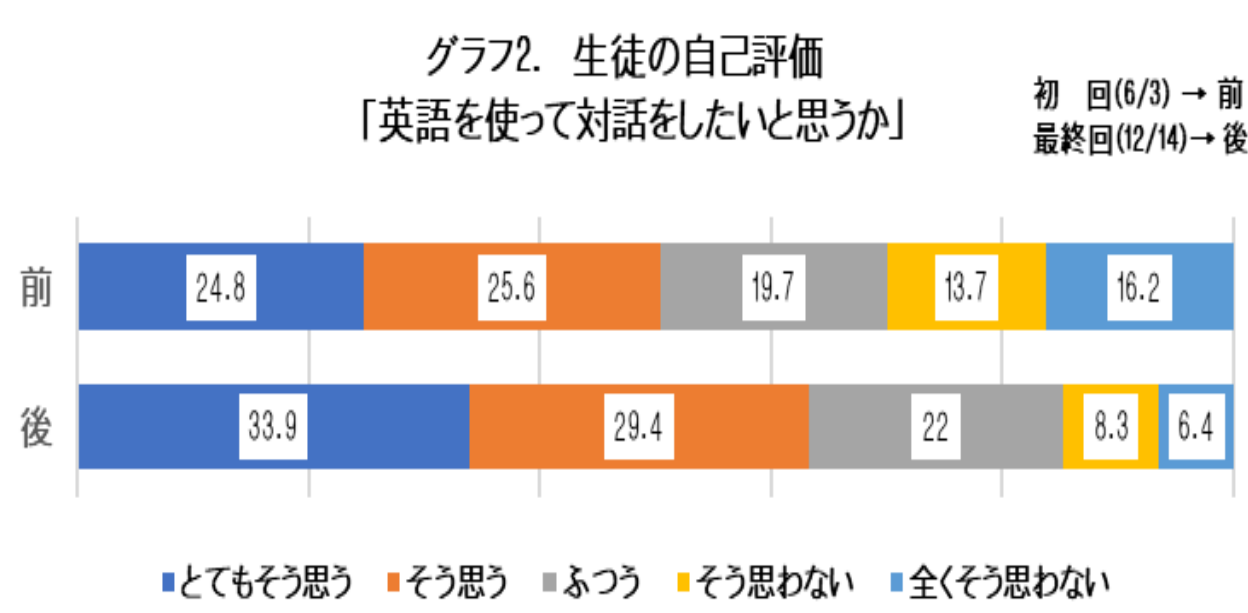
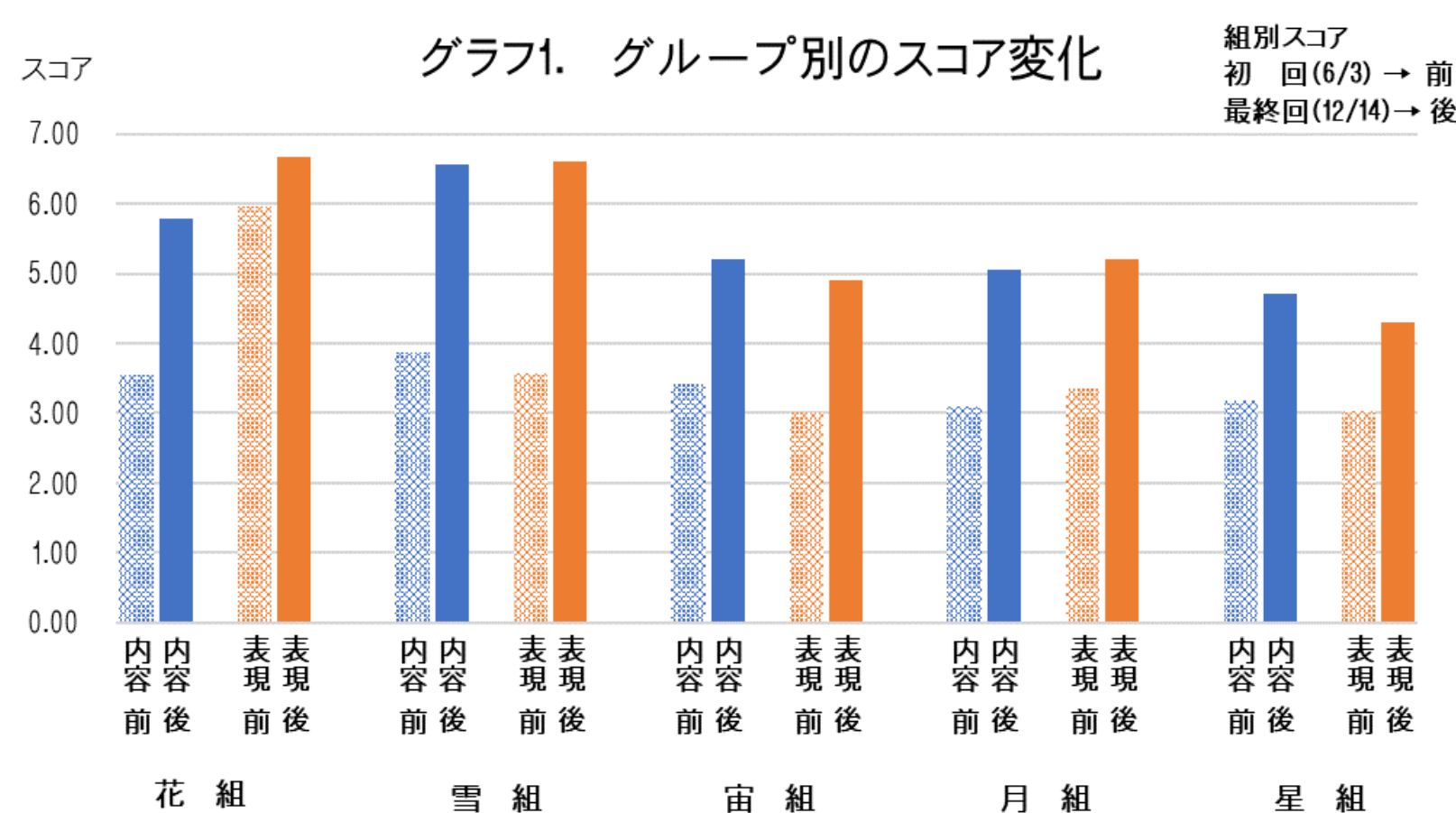
スコア	内 容	表 現	CEFR
6	・発表内容は【挨拶＋論点＋主張＋理由＋具体例＋具体的説明＋結論】で、基本的な構成ができているが、情報が多く整理されていないため、スピーチの内容にまとまりがない。(発話想定時間:2分30秒～3分30秒)	・声量は十分で聞き取りやすいが、早口で話す場面も見られる。 ・時折アイコンタクトを取れているが、原稿を読み上げている時間がたまにある。	B1
5	・発表内容は【挨拶＋論点＋主張＋理由＋具体例＋具体的説明＋結論】で、基本的な構成ができているが、論点と主張の関連性が低い、論理の飛躍がある、が見られる。(発話想定時間:1分30秒～2分30秒程度)	・声量は十分で聞き取りやすいが、早口で話す場面も見られる。 ・原稿は見ると、時折アイコンタクトやボディランゲージを交えながら、原稿にない内容も加えて話すことができる。	B1
4	・発表内容は【挨拶＋論点＋主張＋理由＋具体例】で、具体的説明が乏しい。(発話想定時間:1分～2分程度)	・声は時々聞こえないこともあるが、大体の内容は聞き取れる。 ・時折アイコンタクトを取れているが、原稿を読み上げている時間がたまにある。	A2
3	・発表内容は【挨拶＋論点＋主張＋理由】で、具体例、具体的説明が乏しい。(発話想定時間:30秒～1分30秒程度)	・声は時々聞こえないこともあるが、ある程度内容は聞き取れる。 ・アイコンタクトを取ろうとする姿勢は見られるが、原稿を読み上げている時間がある。	A2
2	・発表内容は【挨拶＋論点＋主張】で、理由や具体例、具体的説明が抜けている。(発話想定時間:30秒～1分程度)	・声が小さいと感じる時間が多く、全体を通して聞き取りづらい。 ・アイコンタクトを取ろうとする姿勢は見られるが、原稿を読み上げている時間が長い。	A1
1	・発表内容は【挨拶＋論点】程度にとどまる。(発話想定時間:30秒未満)	・声がかなり小さく、聞き取ることが難しい。 ・アイコンタクトはなく、原稿を読み上げている。	A1

写真2～5 即興型英語ディベート（左から準備、ディベート、評価）



## <即興型英語ディベート>からみられる生徒の変容

- ・グラフ1から、初回(6/3)と予選②(12/14)の「グループ別のスコア変化」及び「生徒の意識等調査」の結果を示す。全グループとも「内容」「表現」のスコアが上昇している。特に雪組は大きくスコアを伸ばし、英語力が伸長することで質の高い内容（議論）が展開できたと考えられ、次年度の指導の参考となる。
- ・グラフ2、4から、「対話したい」と思う生徒の割合は増加し、意見交換の場などで説明したり意見を述べたりできると考える生徒が増加している。
- ・グラフ3から、当初の生徒の想定より発想力や論理的思考力などが習得されたと認識されており、英語表現力にとどまらない資質能力が習得されている。



## 【3】今後の課題

- ・アカデミックライティングやプレゼンテーションの指導手法をより体系化し、教育効果を検証していく。
- ・英語力が中間層の生徒がさらに能動的に意見等を述べるようにするための工夫・改善を行う。
- ・本校での授業を、本学学生や院生等の実習の場として活用することも検討できる。

問1 ある程度考える時間があれば、仕事、家族、自由時間などに関する基本的な情報を伝えることができる  
 問2 準備する時間を与えられれば、興味ある分野の様々な身近なテーマについて、わかりやすく説明することができる  
 問3 準備する時間を与えられれば、興味ある分野の幅広いテーマについて、明確で詳細な説明をすることができる  
 問4 英語での意見交換の場で、興味ある分野の様々な身近なテーマについて、言いにくいことをわかりやすく説明し、会話を続けることができる  
 問5 英語での意見交換の場で、興味ある分野に関する幅広い話題について意見や感想を、無難な表現ではなく、対話を続けることができる  
 問6 準備時間が短く与えられない場合でも、社会問題等に関する難しいテーマであっても明確かつ構造的なスピーチで、流暢で自発的な表現を示すことができる